© Kay Fingerle

主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3（川端通り荒神橋上る）

TEL: 075-761-2188（内線31#）
info-villa-kamogawa@goethe.de
www.goethe.de/villa-kamogawa/ja

〈交通のご案内〉
京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。（カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください）

カルチャートーク
Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：建築とコレオグラフィー

「テクノロジーやメディアは人間の拡張である」と主張したマーシャル・マクルーハンは、「家屋は集合体としての皮膚もしくは衣服である」と述べています。確かに建築物は、外界から身を守る皮膜であると考えられるでしょう。建築設計においては、人間が空間の内部をどのように移動するか、すなわち動線をいかにつくるかが重要視されます。そのためには現代舞踊のコレオグラフィー（振付）が参考になるかもしれません。小さな建物に関心を抱く建築家と、「ダンス保育園」の空間構成も手がける建築家が、身体と運動、空間とデザインについて話し合います。

第2部：AIは家族になれるか

たまごっちからAIBOまでを可愛がり、工場のロボットに愛称を付ける日本人は、欧米では「無批判な技術フェチ」と評されることがあるそうです。他方、ドイツでは、テクノロジーの進歩に対して「ジャーマンアングスト」とも言われる過剰な不安感を抱く人がいるのだとか。両者の違いが何に由来するのかはさておき、ロボットやAI（人工知能）は今後、家事や介護、さらには「癒し系」と呼ばれる分野にも進出してゆくと目されています。こうした新しい「仲間」たちには、どのような役割を与え、どんな倫理観とどれほどの自由を持たせるべきか。デジタルアートを得意とするキュレーターと、人工生命や複雑系を研究する専門家が対話します。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。

カイ・フィンガレ（建築家、写真家）
Kay Fingerle (Architektur, Fotografie)
ベルリンとコペンハーゲンで建築を学び、その思考の手段として写真 にも取り組んだ。2002年より建築家としてベルリンを拠点に活動し、世界各地でプロジェクトを実現。建築家、写真家として、ヴェネチア･ビエンナーレ建築展に参加。また、ニューヨーク近代美術館等で、写真作品が展示された。ヴィラ鴨川滞在中は、（坪庭など）日本建築における造られた自然をリサーチし、建造物と自然の関係を探る。また、建築と写真の活動を通し、引き続き両者の融合や共通の問題に取り組む。kay-fingerle.com（建築）kayfingerle.com（写真）

永山 祐子（建築家）
Yuko Nagayama (Architektur)
1975年東京生まれ。1998年昭和女子大学生活美学科卒業。1998年青木淳建築計画事務所入社。2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に「LOUIS VUITTON 京都大丸店」「丘のある家」「豊島横尾館（美術館）」「女神の森セントラルガーデン（小淵沢のホール・複合施設）」など。JIA新人賞（2014）「豊島横尾館」、山梨県建築文化賞、JCD Design Award銀賞（2017）、東京建築賞優秀賞（2018）「女神の森セントラルガーデン」。現在、ドバイ国際博覧会日本館（2020）、新宿歌舞伎町の高層ビル（2022）などの計画が進行中。yukonagayama.co.jp

© Helena Wimmer

ジャンヌ・フォークト（文化芸術論、キュレーター）
Jeanne Vogt (Kulturtheorie/-kritik)
国際経営学、イノベーション経済学、異文化経済コミュニケーションをイェーナで、開発経済学をローマで学んだ。フランクフルトのNODE 17 Forum for Digital Arts のディレクターをはじめ、キュレーター、アートプロデューサーとしてドイツ国内外で活動。メディア理論や、デジタル化がアート創作に及ぼす影響に関心を持ち、ヴィラ鴨川滞在中は、ロボティクスやクリティカル・メイキング、パフォーマンスとアートとの関連性等についてリサーチする。jeannevogt.de

池上 高志（複雑系研究者、東京大学大学院総合文化研究科教授）
Takashi Ikegami (Künstliches Leben, Komplexes System)
1984年東京大学理学部物理学科卒業、1989年同大学院理学系研究科博士課程修了。1990年神戸大学大学院自然科学研究科助手。1994年東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻助教授に。2008年より現職。理学博士。複雑系と人工生命をテーマに研究を続けるかたわら、アートとサイエンスの領域をつなぐ活動も精力的に行う。著書に『生命のサンドウィッチ理論』、『動きが生命をつくる―生命と意識への構成論的アプローチ』、『人間と機械のあいだ』(共著)など。sacral.c.u-tokyo.ac.jp

小崎 哲哉（司会、構成）
Tetsuya Ozaki (Moderator)
1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART iT』を創刊。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013 のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。2019年4月、フランス政府より芸術文化勲章シュヴァリエを受章。realkyoto.jp

GOETHE INSTITUT
VILLA KAMOGAWA